

## 金融工学の課題と今後の方向性

加藤 康之 CMA

### 目 次

1. はじめに
2. これまでの回顧
3. 金融危機で明らかになった金融ビジネス構造と制度の課題
4. 今後の展望—今後金融工学が取り組むべきテーマ
5. 終わりに

### 1. はじめに

先日、金融庁のバーゼル担当者の話を聞く機会があった。バーゼルII導入の際には高度な金融工学が導入されたことに感心したが、新しい規制に関する議論では、直感で分かりやすいようにという方向性だそうである。高度で複雑になり過ぎたモデルと直感で分かるモデルのせめぎ合いが金融工学の1つのテーマになっている。

金融工学は、1600年に最初の株式会社である東インド会社が設立され、資金調達として株式が導入されたところから始まると考えることができ



る。その後、世界は未曾有の経済成長を遂げた。ただ、証券市場が発展すると同時に金融・経済事

#### 加藤 康之 (かとう やすゆき)

マウンテン・パシフィック・インベストメント・アドバイザーズ株式会社 マネージングディレクター (取締役)。1980年東京工業大学大学院修士課程卒業。同年、野村総合研究所入社。米国、欧州の金融工学研究部門、システムサイエンス部長、野村證券(株)執行役・金融工学研究センター長を経て、2010年4月から現職。京都大学大学院非常勤講師。日本証券アナリスト協会カリキュラム委員会委員。著書に『初心者のための資産運用入門』、『金融工学辞典』(以上、東洋経済新報社)、『株式投資の科学』(角川出版)等。